

鹿児島の動物 68

かごしまのニホンジカ

脊椎動物担当 渡邊 剛

日本に生息するシカは、ニホンジカ *Cervus nippon* という種です。ニホンジカには現在、国内に6つの亜種（地域や環境の違いにより、見た目などに明確な特徴があるグループ）がいます。鹿児島県には、本土に生息するキュウシュウジカ、屋久島と口永良部島に生息するヤクシカ、馬毛島や種子島に生息するマゲシカの3亜種が生息していますので、それぞれの特徴や生息域などについて紹介します。

1 ニホンジカの特徴

哺乳綱鯨偶蹄目シカ科に分類されます。「ニホン」という名が付きますが、実はベトナムから極東アジアにかけて広く分布しています。

オスはメスより大型になり、立派な角を持っていますが、メスは角を持っていません。このように雌雄で体のつくりや特徴が大きく異なることを「性的二形」といいます。

また、ホニウ類などの恒温動物で見られる、「寒い地域に生息するものほど体が大きく、暖かい地域のものほど小さくなる」という「ベルクマンの法則」が明確に現れることでも有名です。

2 鹿児島県のニホンジカ3亜種

① キュウシュウジカ

<オス>全長 約140cm、体重約90kg
<メス>全長 約120cm、体重約50kg

ニホンジカの中では中程度の大きさです。出水市や伊佐市、霧島市の山地や、鹿児島市八重山などで生息密度が高くなっています。



キュウシュウジカ(霧島市)

近年では、もともと生息していなかった南薩地域にも分布が広がり、現在、県本土全域で生息が確認されています。

② マゲシカ

<オス>全長 約110cm、体重約70kg
<メス>全長 約100cm、体重約40kg

種子島の西方約10kmにある馬毛島と、種子島に生息します。体の大きさはキュウシュウジカとヤクシカのほぼ中間です。



マゲシカ(南種子町)

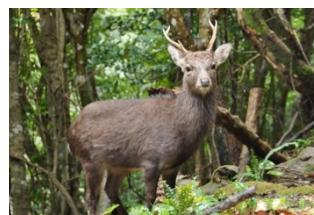
種子島では生息数が増え、密度の高い北部から、南部の中種子町や南種子町に生息域が広がってきています。

③ ヤクシカ

<オス>全長約100cm、体重約60kg
<メス>全長約95cm、体重約35kg

屋久島と口永良部島に生息するシカで、体は小さく、北海道に生息するエゾシカの半分ほどしかありません。

オスの角はキュウシュウジカでは4つに枝分かれして60cm以上になるものもありますが、ヤクシカでは3つに枝分かれして40cmほどのものが標準的です。



ヤクシカ(屋久島町)

3 ニホンジカの増加と人間社会との軋轢^{あつれき}

ニホンジカは、狩猟による乱獲のため、明治時代から昭和初期には生息数が大きく減少し、保護対象となっていました。しかし、近年、生息数が大きく回復したことで、農業や林業分野での食害、交通事故や列車事故を引き起こす事例が増えています。

また、数が増えたことで、これまでシカが生息していない場所へ分布が拡大し、希少な植物を含む森林生態系に大きな影響をおよぼし始めました。



ヒノキの食害(霧島市)



シカにより下草が食べ尽くされた森(さつま町)

4 外来種問題

観賞用や狩猟用として、ニホンジカは国内外に移入されています。残念ながら、その一部が逃げ出して野生化し、外来種となった事例があります。

鹿児島県では、トカラ列島臥蛇島や喜界島で外来種としてニホンジカの定着が報告されています。